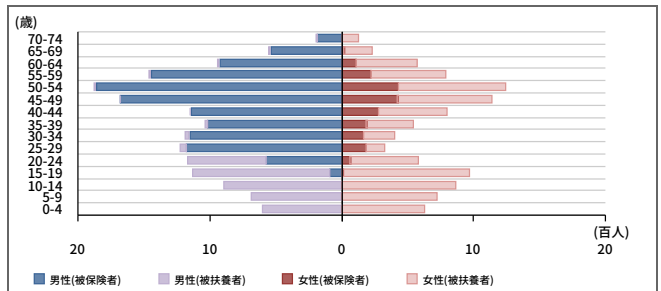


荏原健康保険組合 サマリー (第3期 令和6年度)

STEP1 基本情報

組合コード	27390
組合名称	荏原健康保険組合
形態	単一
業種	機械器具製造業
被保険者数	14,446名
* 平均年齢は特例退職被保険者を除く	男性85% (平均年齢45歳) * 女性15% (平均年齢44歳) *
特例退職被保険者数	0名
加入者数	26,700名
適用事業所数	21カ所
対象となる拠点数	500カ所
保険料率 (調整を含む)	88%



特定健康診査実施率	(全体) 80.4%	(被保険者) 95.0%	(被扶養者) 42.1%
特定保健指導実施率	(全体) 26.4%	(被保険者) 27.7%	(被扶養者) 5.6%

STEP2 健康課題の抽出

優先すべき課題

・被保険者の特定健診受診率は高いものの、年度によって変動がある。 ・特定健診受診率は、被扶養者において2020年度から増加しているものの、横ばい。全国平均(健保連集計令和3年度)の被扶養者健診受診率46.1%よりもやや低い。年齢別では被扶養者の40代前半・50代後半に課題あり。 ・健診未受診者のうち、医療機関を受診し、健診未受診者の対象が被扶養者で43.8% (784人)。	✓
カテゴリ: 健康状況	
・プレゼンティーズムに関連する疾患において、不眠症の受診日数が他組合と比べてやや高い ・アブセンティーズムに関連する疾患において、慢性腎臓病の受診日数が他組合よりも多い。	
カテゴリ: 生産性	
・特定保健指導の割合を経年で集計すると、経年で服薬者の割合が増加傾向。被保険者の非肥満・検査値正常の割合が減少。特定保健指導対象者は他組合とほぼ同割合。 ・特定保健指導対象者のリバウンドやリピート群は多く、流入群は新40歳で毎年60人程、健診値悪化や服薬中断は270~450人程。	
カテゴリ: 健康状況	
・40歳未満の特定保健指導域該当の実態を集計すると、男性被保険者においては、35~39歳 19.3% (145人)、30~34歳 16.8% (137人)、29歳以下11.4% (173人) が既に特定保健指導に該当している。	
カテゴリ: 健康状況	
・2型糖尿病は経年で医療費が大幅に増加、高血圧症は減少傾向。また、重症化疾患においては、2018年度と比較して減少傾向にあるが、2020年度と比較してやや増加している疾患がある。 ・被保険者の生活習慣病リスクを各階層別に分解すると、治療放置群に該当する割合は5.9%で他組合とほぼ同割合であるものの、該当者数は増加傾向で489人。重症化群は、他組合と比較してやや高く、重症化群の該当者数は増加傾向。 ・医療機関未受診者のうち、重篤な疾患を発症するリスクが高い複数の所見が重なっている対象があり、血糖・血圧・脂質の3つのリスクが重なっている対象は92人。	✓
カテゴリ: 健康状況	
・2022年度24人の人工透析患者が存在しており、慢性腎臓病重症度分類集計によると、高リスクで腎疾患での未受診者が5人。 ・2型糖尿病治療中患者は、経年で増加しており、2022年度のアンコントロール率は60.8%。アンコントロール者のうち、腎機能低下疑いの対象者は112人。	✓
カテゴリ: 医療費・患者数, 健康状況	
・各悪性腫瘍の医療費においてはその他を除き、乳がん、肺がん・大腸がんの順で多い。大腸がんは経年で増加傾向。 ・がん患者数においてはその他を除き、乳がん、大腸がん、胃がんの順で多い。乳がん・大腸がん・胃がんは経年で増加傾向である。	✓
カテゴリ: 医療費・患者数	

STEP3 保健事業の実施計画

事業全体の目的	・生活習慣病予防を目的に、特定健診率・特定保健指導実施率を向上させる対策を行い、また、健康教育などにより健康についての知識を普及する。 ・生活習慣病において受診が必要な対象者が、早期に受診するよう対策を行い、糖尿病や腎臓病などの重症化を予防する。 ・病気の早期発見のため、がんの検診率が向上するよう事業主と協力して対策を検討する。
事業全体の目標	・健診値が悪化し始める不健康な生活群やBMI値25以上の対象者、治療放置群が減少する。 ・生活習慣病の医療費が減少傾向になる。特に腎疾患の医療費の増加が抑えられる。 ・がん検診の受診率が向上する。(特に子宮がん、乳がん検診)
職場環境の整備	1 事業所別健康レポート (事業主との健康課題の共有) 2 文化体育会・コミュニケーション・レクリエーション助成
加入者への意識づけ	1 マイヘルスアップキャンペーン 2 ICTを活用した取り組み (健康情報提供・健康増進イベント)
個別の事業	1 健診 (被保険者) 2 健診 (被扶養者・任意継続被保険者) 3 特定保健指導 (強制被保険者) 4 特定保健指導 (被扶養者・任意継続被保険者) 5 広報誌発行 6 後発医薬品の使用促進 7 胃内視鏡検査費用補助 8 2次検査受診勧奨 9 人間ドック 10 がん検診 (子宮頸がん・乳がん・前立腺がん) 11 インフルエンザ予防接種費用補助 12 電話健康相談 (ファミリー健康相談・メンタルヘルスカウンセリング・女性サポート相談) 13 重症化予防対策 14 健康教育 15 フィットネスクラブ年会費・利用助成 16 ポリファーマシー対策および訪問健康相談 17 禁煙事業補助 18 歯科保健指導・受診勧奨

・男性被保険者の健康状況（健診値）と生活習慣（問診）を他組合と比較すると、肝機能・肥満・脂質と飲酒の課題が見られる。ただし、運動習慣非リスク者の割合は他組合も低いため、運動習慣を改善する取り組みが必要である。 ・女性被保険者の健康状況（健診値）と生活習慣（問診）を他組合と比較すると、肝機能・運動の課題が見られる。 ・被保険者の身体活動を実施している割合は他組合よりも低く、経年で悪化傾向。特に女性で顕著。 ・喫煙率は、被保険者は男女ともに他健保と比べ低い。全体として経年で男性被保険者は減少傾向にある。 カテゴリ：健康状況	
・経年で歯科受診者割合は増加しているが、全体で約半数が年1回の歯科受診がなく、そのうち3年連続未受診者は60.3 %（6160人）と多い。年齢階層別では20代が最も低く、また被保険者は被扶養者と比べ低い傾向にある。 カテゴリ：医療費・患者数, 健康状況	✓
・有害事象発生（ポリファーマシー）の可能性のあるリスクの高い6剤以上の処方がある患者は、被保険者で11.0%（約566人）、被扶養者で8.1%（約397人）の該当者が存在。特に40－60代で多い。 カテゴリ：健康状況	
インフルエンザの受療率は、他組合と比較して女性被保険者においては高い。2022年度に受療率が増えていることから、感染予防対策が重要である。 カテゴリ：医療費・患者数	
頻回受診は、40代後半から60代に多く、65歳未満は内科・循環器科・泌尿器科、前期高齢者は外科、整形外科が上位。はしご受診は、小児以外にも30代後半以上に多い。 カテゴリ：その他	
後発医薬品の数量比率は、2022年度82.9%であり、国の目標である80%達成。目標を85%に定めて利用促進を行う。 カテゴリ：その他	
・メンタル疾患の受療率は、経年（2018対2022）で受療率は0.8%増加。 カテゴリ：医療費・患者数, 健康状況	